

H 363.5
6.11

日本文成語
諺語
慣用語大全

解註＋譯翻＋音標＋例用

著編 福隆莊

ボサケ
みれど
もが

五南圖書出版公司

日 文 成 語

諺 語

慣 用 語 大 全

莊 隆 福 編 著

中國文化大學日本學研究所碩士
吳東大教學推廣中心講師
日本神戶大學學院博士班

五 南 圖 書 出 版 公 司 印 行

日文成語・諺語・慣用語大全

中華民國 71 年 10 月初版

著作者 莊 隆 福

發行人 楊 榮 川

發行所 五南圖書出版公司

局版臺業字第 0598 號

臺北市銅山街 1~1 號

電話：3916542 號

郵政劃撥：106895 號

基本定價：4.00 元

印刷所 明文印刷廠

(本書如有缺頁或倒裝，本公司負責換新)

序 言

語言文字是人與人溝通意識的工具，俗語說：工欲善其事，必先利其器。要把一種語文學好，當然要有適當的語言教材，持之以恆的努力才能奏效。學習日本文，如果光記文法、發音規則是不夠的。日文與中文一樣，包含了許多諺語、成語、慣用語，如果沒有把這些語言中的精華納入學習的範疇，在聽、說、讀、寫方面，將會有重大的缺憾。

諺語、成語、慣用語，這是前人智慧的結晶，語言的精華，它不但包括了人生的教訓哲理，也包含了諷刺與幽默。能了解這些語言的精華，對於日本民族的思維方式，將會獲得更深一層的認識。本書蒐羅了日文中諺語、成語、慣用語數千條，

以五十音的順序編排。主要取材於日文各大辭典中的用例，加以標音、翻譯、註解而成的。另外，日漢大辭典中所收有關諺語、慣用語之部分，也由筆者加以標音、排列後納入本書。因此，本書所收條目、數量相當豐富。本書一方面可當做辭典查考，也可以當做一般日文書籍來閱讀。在此類書籍甚少的國內出版界，希望本書能提供學習日本語文的朋友若干的便利。筆者才疏學淺，書中謬誤，在所多有，尚祈各方賢達，多加指正！

另外，在此要感謝東吳大學日本文化研究所所長蔡茂豐教授及日本神戶大學文學部藤岡忠美教授之鼓勵與指導。其次感謝淡江大學李彩霞老師的推介，使得本書能順利出版。最後，編排期間煩勞日本神戶大學文化學研究科博士課程之丹羽博之，日本尼崎市中學教諭中村博行兩位學長鼎力協助，在此一併致最高謝意。

莊隆福

敬識於日本神戶

1 序

日文成語諺語慣用語大全 目次

あ		一
い		一八
う		三七
え		四六
お		四九
か		六五
き		八二
く		九六
け		一〇四
こ		一一一
さ		一二七

は	の	ね	ぬ	に	な	と	て	つ	ち	た	そ	せ	す	し
.....														
一三三	一三一	一二七	一二六	一二三	一一八	二〇八	一九七	一九三	一八七	一七六	一七一	一六三	一五九	一三四

3 序

る	り	ら	よ	ゆ	や	も	め	む	み	ま	ほ	へ	ふ	ひ
三 一 二	三 一 〇	三 〇 九	三 〇 四	三 〇 〇	二 九 五	二 九 二	二 八 五	二 八 一	二 七 二	二 六 九	二 六 四	二 六 一	四 五 五	二 四 四

わろれ

三	三	三
一	一	一
四	四	三

あ

愛あいの楔くさび。

子女是愛情的保證。

藍あいより出いでて藍あいより青あおし。

青出於藍而勝於藍。

愛嬌あいぎょう溢こぼれるばかりだ。

笑容满面。

挨拶あいさつは時の氏神うじがみ。

打架爭吵時，對於出面仲裁的人要尊敬。

愛あいして而しかもその惡あくを知る。

愛而知其惡（喜歡一個人要能知其善惡）

愛想あいそが尽つきる。（愛想を尽つかす。）

討厭、嫌惡、唾棄。

相對あいたい峙じして下くだらない。

相持不下。

開あいた口くちもちへ餅。

意外的幸運，福自天來。

開あいた口くちもちが塞ふさがらない（ぬ）。

(1) 吃驚得目瞪口呆，瞠目結舌。

(2) 出神、精神恍惚。

逢あうは別わかれの始はじめ。

有聚必有散；人生聚散無常。

逢あうた時ときに笠かさを脱ぬげ。

遇上熟人要寒暄、遇到機會要抓住。

相槌を打つ。
あいづちをうつ。

隨聲附和、幫腔。

仰いで天に愧じず俯して地に忤じず。
あおいでてんはくはふしてちにはは。

仰不愧於天，俯不作於地。

青白きインテリ。
あおしろ。

(蔑) 面色蒼白的知識份子，只會空談的

知識份子。

青筋を立てる。
あおすじをたてる。

氣得青筋暴露。

青菜に塩。
あおなにしお。

垂頭喪氣，無精打采。

足掻がつかぬ(ない)；(足掻が取れぬ)
あがきがつかぬ(ない)；(あがきがとれぬ)

一籌莫展，進退維谷。

赤くなる。

(1) 羞慚得面紅耳赤。

(2) 思想變紅、左傾。

赤子の手を捻る。
あかこてひねる。

實力懸殊，輕易地使對手落敗。

秋の鹿は笛に寄る。
あきのしかふえよ。

秋天時牡鹿牝鹿相慕情殷，容易為獵人的鹿筈所欺。(喻：弱點容易被利用)

秋の日は吊瓶落し。
あきのひはひつるべおと。

秋天的太陽落得快。

秋の夕焼け、鏢を研げ。
あきのゆうや、かまをと。

秋天傍晚現紅雲，要趕快磨鋒刀。(明天天晴好割稻)

あきたか うまこ
秋高く馬肥ゆ。

秋高馬肥。

あきだる おとたか
空樽は音高し。

説話沒有内容，半瓶醋。半瓶水響叮嚀。

あきない うし よだれ
商は牛の涎。

作買賣時要有好耐性。

あきなす よめ
秋茄子は嫁に食わすな。

(1) 秋天好吃的茄子勿讓媳婦吃（婆婆虐待

媳婦之意）。

(2) 秋天的茄子傷女人的子宮，所以勿讓新

媳婦吃。

あきら こころ ようじやう
諦めは心の養生

知命達觀，是處逆境的要訣。

あきんど そらせいもん
商人の空誓文。

商家口中無真話。

あく つよ ぜん つよ
惡に強ければ善にも強い

擅長為惡者導之於正途亦能使其行大善。

あく しやう も これ な
惡の小なるを以つて之を爲すこと勿かれ
勿以惡小而為之。

あく ぬ ひと
灰汁の抜けた人

風流儒雅之士，超凡脫俗之人。

あくさい ろくじやうねん ふさく
惡妻は六十年の不作。（惡妻は一生

の不作）

家有惡妻，一輩子都倒霉。

あく じせんり はし
惡事千里を走る（行く）

好事不出門，惡事傳千里。

悪女あくじょの深情ふかなさけ

其貌不揚其情卻深。

悪銭身あくせんみにつかず。

不義之財絶無久享之理。

悪態あくたいをつく。

罵街。

口頭瘡くちうきも切れぬ若者わかもの。

乳臭未乾的小子。

悪木あくぼく盗泉とうせん。

清廉潔白之人不近汚濁。

悪魔あくまに魅入みいられる。

惡魔附身。

あげ足あしを取る。

挑剔缺點，抓住短處。

挙句あげくの果はて。

結局，最後終於。

上げ下げあさを取ると。

一褒一貶；時而說好時而說壞。

顎あごを出す。

精疲力盡，疲憊不堪。

顎あごを撫なでる。

沾沾自喜，洋洋得意。

顎あごを外はずして笑わらう。

解頤大笑，開口大笑。

顎あごが落ちる。

特別好吃。

顎 あご が干上 ひあ がる。

無法鋤口，無法維生。

顎 あご で使う つか。

頭使，威氣凌人地指揮別人。

阿漕 あこ が浦 うら に引く網 ひあみ。

事雖隱密多行必為人知。

麻 あさ の中 なか の蓬 よもぎ；麻 あさ に連る よもぎ 蓬。

蓬生麻中不扶而直；近朱者赤，近墨者黑。

朝雨 あさあめ に傘 かさ 要 い らず（朝雨 あさあめ 蓑 みの 要 い らず）。

清早下雨，馬上就會放晴，因此出門時不

必帶傘（或穿蓑衣）。

朝雨 あさあめ 馬 うま に鞍 くら 置 お け。

朝雨馬備鞍（清早下的雨立刻會停，可以

做外出的準備。）

浅 あさ い川 かわ も深く渡 わた れ。

不可輕敵。凡事要戒慎恐懼，不可大意。

朝 あさ 起 お きは三文 さんもん の徳 とく（早起 はやお きは三文 さんもん の得 とく）

早起三朝當一工，早起是美德。

朝 あさ 顔 がお の花 はな 一時 ひととき。

曇花一現；好景不常。

朝 あさ 駟 がけ の駄 だ 賃 ちん。

輕而易舉，反掌折枝之易。

浅 あさ 瀬 せ に仇 あだ 浪 なみ。

淺灘多波浪，沒有識見者多牢騷。

朝 あさ 寢 ね 坊 ぼう の宵 よい っばり（宵 よい っばりの朝 あさ 寢 ね 坊 ぼう）

遲起的人都是夜貓子。夜貓子沒有早起床的。

あさ 風呂丹前長火鉢。
朝 風呂丹前長火鉢。

安逸舒適的生活。

あし あら
足を洗う。

洗手不幹，改邪歸正。

あし
足を入れる。

插一脚，插足其間。

あし うば
足を奪われる。

交通中止，交通工具無法利用。

あし すりこぎ
足を搗粉木にする。

疲於奔命。

あし だ
足を出す。

(1) 錢花過頭，錢財虧空。
(2) 露出馬脚。

あし
足を付ける。

搭上關係。

あし ぬ
足を抜く。

脫離關係。

あし の
足を伸(延)ばす。

延長路程。

あし はこ
足を運ぶ。

出門，特意尋訪。

あし
足を引っぱる。

扯後腿，阻撓別人成功。

あし あが
足が上る。

失去依靠。

あし
足が付く。

得到線索。

足^{あし}が^で出る。

(1) 錢花過頭、虧空、賠錢。

(2) 露出馬脚。

足^{あし}が^{にぶ}鈍る。

裹足不前，退縮。

足^{あし}が^{はや}早い。

(1) 走得快。 (2) (食品) 容易腐敗。

(3) 商品暢銷。

足^{あし}が^{ぼう}棒のようになる；(足^{あし}が^{ぼう}棒になる)。

脚累得彎不過來。

足^{あし}が^む向く。

信步所之。

足^{あし}に^{まか}任せる。

(1) 信步所之。 (2) 盡最大能力行走。

味^{あじ}を^し占める。

食髓知味，嘗到甜頭。

味^{あじ}(^{こと}な事)をやる。

幹得漂亮。

味^{あじ}もそつけない。

索然無味。

足^{あし}音^{おと}を^{ぬす}盗む。

蹣足。蹣手蹣脚。

朝^{あした}には^{こう}紅顔^{がん}ありて^{ゆう}夕^べには^{はく}白骨^{こつ}となる。

朝為紅顏夕白骨，人生如朝露。

朝^{あした}に^{みち}道^きを聞かば^{ゆう}夕^べに^し死すとも^か可なり。

朝聞道夕死可也。

あしたゆうべはか
朝に夕を謀らず。

朝不謀夕。

あした あした かぜふ
明日は明日の風が吹く。

船到橋頭自然直。

あしもと み
足下を見られる；（足下を見る）。

被人看穿底細。（看穿別人底細）

あしもと とりた
足下から鳥が立つ；（足下に火がつく）

肘腋生變；事出突然，大禍臨頭。

あしもと
足下につけこむ。

抓住別人短處，抓住弱點。

あしもと よ
足元にも寄り付けぬ；（足元にも及ばな

い）

望塵莫及，趕不上。

あす ひぐ きう ごじう
明日の百より今日の五十。

明天得一百不如今天得五十。（勸人把握

現在）

あずか ちから
与つて力がある。

對……有貢獻。

あずまおとこ きうおんな
東男に京女。

關東男兒配京都閨女最相稱。

あせ
汗をかく。

(1) 流汗。(2) 出冷汗。

あせ にぎ
汗を握る。

捏一把冷汗，緊張。

あせ いせ うるお
汗出でて背を沾す。